

# 農林水産委員会 県内所管事務調査の概要

【令和4年5月11日（水）】

## ◆調査箇所：農事組合法人南田代（由布市挾間町田代）

<概要>

農事組合法人南田代では、地区で農地を持つ38名全員を構成員として、白ねぎをはじめ、ハトムギ、小麦、裸麦、大豆などの品目を栽培し、近年では堆肥の導入による土づくりやドローンを取り入れた防除なども行いながら、栽培面積や栽培品目を拡大している。

今回の視察では、現在に至るまでの経緯や今後の取組や課題について説明を受けた。

<主な質疑等>

- ・収穫物の出荷先について
- ・組合の経営状況について
- ・令和3年の白ねぎの売上実績について



## ◆調査箇所：大分県農業協同組合南部事業部野津選果場（臼杵市野津町野津市）

<概要>

J Aおおいた南部事業部野津選果場では、夏秋期のピーマン出荷量西日本1位を誇るピーマンの県内3か所の選果場のうちの1つを担っており、出荷量の増加に対応するため、今年度事業で施設の増設を予定している。

今回の視察では、産地の概要やピーマン部会の状況、さらにはピーマンの選果の工程について説明を受け、意見交換を行った。

<主な質疑等>

- ・ピーマンの連作障害の影響について
- ・新規栽培者育成スクールへの野津町外の人の参加について
- ・ピーマン農地の過去の活用例について



## ◆調査箇所：株式会社大分みらい水産（臼杵市佐志生）

<概要>

株式会社大分みらい水産では、ブリ、ヒラマサの養殖を営んでおり、かぼすブリは全体の3割を生産している。また、従業員8名の平均年齢は36.5歳で20代の社員も多数活躍しているのが特徴である。

今回の視察では、養殖施設の概要や養殖魚の成長の過程などについて説明を受けた。

<主な質疑等>

- ・餌の量と魚の成育の関係について
- ・赤潮時の給餌について
- ・養殖魚の成育数について



## ◆調査箇所：中部振興局、大分家畜保健衛生所

<概要>

中部振興局（管轄：大分市、臼杵市、津久見市、由布市）及び大分家畜保健衛生所における組織及び管内の概要や、新型コロナウイルス感染症の影響と対応、水田畑地化の取組、担い手の確保・育成の状況等についてそれぞれ説明を受け、意見交換を行った。

<主な質疑等>

- ・J Aピーマン選果場の将来的な再整備について
- ・石場ダムの水源としての能力と過不足の見通しについて



【令和4年5月16日（月）】

◆調査箇所：和泉農園（豊後高田市呉崎）

＜概要＞

和泉農園では、白ねぎとぶどうの複合経営をしており、令和2年に県農業賞、令和3年に農林水産大臣賞を受賞している。平成19年の発売前からシャインマスカットにいち早く目をつけ、スピード感をもって大量に栽培した結果、高品質のものができるようになり、現在では香港を中心に海外にも輸出しており、輸出量は右肩上がりに増えている。

今回の視察では、シャインマスカットの経営の概要や栽培する農園の状況について説明を受けた。

＜主な質疑等＞

- ・ぶどうの品種による生育状況の違いについて
- ・経営者としての知識の習得や情報収集について
- ・ぶどうの盗難対策について



◆調査箇所：農事組合法人蜷木営農（宇佐市蜷木）

＜概要＞

農事組合法人蜷木営農では、農地の集積、集約化を図ることで効率化や低コスト化を実現し、麦・大豆などを中心に、年間1千万円近い利益を上げている。近年では、若者の求人活動に力を入れており、給与や勤務体系も全体が分かるように全てオープンにしている。実際に、令和2年から20代1名、30代1名の計2名を新たに雇用している。

今回の視察では、法人の経営の概要や雇用の取組等について説明を受けた。

＜主な質疑等＞

- ・農業のスマート化について
- ・新規採用者の働き方について
- ・パイプラインの整備について



◆調査箇所：北部振興局、農林水産研究指導センター農業研究部水田農業グループ、水産研究部北部水産グループ、宇佐家畜保健衛生所

＜概要＞

北部振興局（管轄：中津市、豊後高田市、宇佐市）、農林水産研究指導センター農業研究部水田農業グループ、水産研究部北部水産グループ及び宇佐家畜保健衛生所における組織及び管内の概要や、戦略品目である白ねぎ・小ねぎの面積拡大、早生水稲なつほのか普及に向けた取組、ヒジキ養殖技術の開発、家畜伝染病予防対策の取組等についてそれぞれ説明を受け、意見交換を行った。

＜主な質疑等＞

- ・落花生について
- ・企業参入とその特徴について
- ・ウッドショックによる木材輸出の影響について



◆調査箇所：日本フォレスト株式会社（中津市三光）

＜概要＞

日本フォレスト株式会社では、木質チップの製造・販売と環境リサイクル機械の販売を担っており、山林未利用材や低質材の有効活用に伴う森林整備の促進や、未利用材の運搬・チップの製造に伴う新規雇用の創出等により、地域社会に貢献している。

今回の視察では、グループ企業全体の木質バイオマス発電の取組の概要やバイオマス燃料となる木質チップの製造の工程等について説明を受けた。



＜主な質疑等＞

- ・産業廃棄物由来の廃材の受入れについて
- ・廃棄物由来のチップの需要について
- ・ウッドショックの影響について



【令和4年5月17日（火）】

◆調査箇所：県営経営体育成基盤整備事業 大肥地区（日田市大肥）

<概要>

県営経営体育成基盤整備事業大肥地区では、平成29年7月の九州北部豪雨の大肥川氾濫により甚大な被害を受けた。そのため、農地・農業用施設の復旧と周辺の農地と一体的に整備を行い、大肥郷ふるさと農業振興会を主体とした中心経営体への農地集積を図り、また高糖度かんしょや白ねぎなどの高収益作物の導入に取り組んでいる。

今回の視察では、被災直後から現在に至るまでの復旧の状況や大肥郷ふるさと農業振興会の概要について説明を受けた。

<主な質疑等>

- ・復旧後の土地の状態について
- ・農地集積と土地の所得税について
- ・地権者の営農状況について



◆調査箇所：西部振興局、農林水産研究指導センター林業研究部、玖珠家畜保健衛生所

<概要>

西部振興局（管轄：日田市、九重町、玖珠町）、農林水産研究指導センター林業研究部及び玖珠家畜保健衛生所における組織及び管内の概要や、水田畑地化による高収益園芸品目等への生産転換、新規就農者・企業参入の状況、疎植造林による育林施業体系の開発、家畜伝染病予防対策の取組等についてそれぞれ説明を受け、意見交換を行った。

<主な質疑等>

- ・企業参入した農業経験のない企業への営農指導について
- ・非常勤職員の獣医師の状況について
- ・新規就農者の主な生産品目について



◆調査箇所：有限会社本川牧場（日田市高瀬）

<概要>

有限会社本川牧場では、西日本トップクラスの2,500頭を超える経産牛を飼養しており、クラウドシステムを導入した最新設備を備えた牛舎を有している。また、クラウドシステム導入後も、従業員を増員しており、従業員の約半数は女性が担っている。

今回の視察では、牧場経営の歩みや搾乳方式、牧場経営を取り巻く課題等について説明を受けた。

<主な質疑等>

- ・女性従業員の勤務形態や仕事内容について
- ・生乳品質のばらつきの調整について
- ・牛の体調管理について



◆調査箇所：新栄合板工業株式会社大分工場（玖珠郡玖珠町）

<概要>

新栄合板工業株式会社では、九州産の杉・ヒノキを活用して、住宅の壁や屋根材などの高性能建築材料となる構造用合板を生産しており、大分工場と水俣工場を合わせた月間生産量は100万枚で全て九州内で販売している。また、大分工場の従業員は、玖珠町・九重町・日田市から募集した55名からなっている。

今回の視察では、大分工場の施設概要や構造用合板の生産工程等について説明を受けた。

<主な質疑等>

- ・合板用木材の買取価格について
- ・従業員の年齢構成及び勤務形態について



【令和4年5月26日（木）】

◆調査箇所：下入津ヒラメ組合（佐伯市蒲江西野浦）

＜概要＞

下入津地区は、生産量日本一を誇る大分県の養殖ヒラメの主産地で、そのほかにもブリ・カンパチ・シマアジなどの陸上養殖及び海面養殖が盛んである。生産者で構成する下入津ヒラメ組合では、平成23年から「かぼすヒラメ」の開発とブランド化に取り組んでおり、県、市、漁協と一体となって取り組んでいる。

今回の視察では、下入津ヒラメ組合の概要や緑色LEDによる養殖ヒラメの成長促進技術等について説明を受けた。



＜主な質疑等＞

- ・陸上養殖のメリットについて
- ・市場や販売先について
- ・高級魚の今後の販売戦略について

◆調査箇所：大分県漁業協同組合水産物加工処理施設（佐伯市米水津）

＜概要＞

大分県漁業協同組合水産物加工処理施設では、平成23年に現在の施設を整備し養殖ブリのフィレ加工を行っている。毎年加工量は増加しており、コロナ下にあつて令和2年度は104万尾の加工を行っている。

今回の視察では、加工処理施設の概要や養殖ブリのフィレ加工の工程等について説明を受けた。



＜主な質疑等＞

- ・加工処理施設における人員確保について
- ・外国人労働者の宿泊先の確保について
- ・マシントラブル時の対処法について

◆調査箇所：小川香料おおい佐伯農場株式会社（佐伯市米水津）

＜概要＞

小川香料おおい佐伯農場株式会社は、香料の製造・販売をしている小川香料株式会社の子会社で平成30年に設立され、令和3年からレモンの植栽を開始した。現在までに累計8.6haの土地でレモン栽培を行っており、収穫した果実から搾汁し、香料原料を取り出し、販売することを目的としている。

今回の視察では、会社の概要やレモン栽培の今後の展望等について説明を受けた。



＜主な質疑等＞

- ・みかんからレモンへの土地の転用と賃借の状況について
- ・将来的な県内他地域への進出について
- ・雇用対策について

◆調査箇所：南部振興局、農林水産研究指導センター水産研究部

＜概要＞

南部振興局(管轄：佐伯市)及び農林水産研究指導センター水産研究部における組織及び管内の概要や佐伯型循環林業の推進、「うまみだけ」の出荷者育成確保、養殖業の生産体制の強化と販売促進、水田畑地化等による園芸品目の導入拡大の取組等についてそれぞれ説明を受け、意見交換を行った。



＜主な質疑等＞

- ・コロナ禍における花き販売の取組状況について
- ・農林水産業の担い手の減少に対する具体的な対策について
- ・栗の出口戦略について



【令和4年5月27日（金）】

◆調査箇所：株式会社オーエス豊後大野ファーム（豊後大野市大野町）

＜概要＞

株式会社オーエス豊後大野ファームは、異業種からの農業参入企業で、重点品目である白ねぎのみを栽培し、参入から5年で年商1億円を達成。植え付け時期をずらした作付けを年間10回行うことにより周年出荷に取り組み、年間を通して従業員の雇用を維持している。

今回の視察では、企業の概要や白ねぎの調製作業について説明を受けた。

＜主な質疑等＞

- ・予冷施設の保有状況について
- ・従業員の住居地及び外国人労働者について
- ・白ねぎの反収について



◆調査箇所：農事組合法人いわど（豊後大野市清川町）

＜概要＞

農事組合法人いわどでは、水稻、大豆、麦、かんしょなどを栽培しており、特にかんしょは年々栽培面積を拡大しており、法人の稼ぎ頭の品目となっている。法人の高齢化と担い手不足が課題で、近年は農業大学校で求人募集をし、2名を採用している。

今回の視察では、法人の概要や課題等について説明を受け、意見交換を行った。

＜主な質疑等＞

- ・かんしょ（甘太くん）の規模拡大について
- ・水保全の取組及び中山間地直接支払いの取組について
- ・若手従業員の就職のきっかけと今後の抱負について



◆調査箇所：豊肥振興局、農林水産研究指導センター農業研究部、畜産研究部、農業大学校、林業研究部きのこグループ、豊後大野家畜保健衛生所、県央飛行場

＜概要＞

豊肥振興局（管轄：竹田市、豊後大野市）、農林水産研究指導センター農業研究部、畜産研究部、林業研究部きのこグループ、農業大学校、豊後大野家畜保健衛生所、県央飛行場における組織及び管内の概要や、園芸・畜産の生産振興、担い手の確保・育成、林業・特用林産物の振興、鳥獣被害対策、ICTの活用による赤潮防止対策技術の開発、農業大学校での教育・研修の状況等についてそれぞれ説明を受け、意見交換を行った。

＜主な質疑等＞

- ・施設整備の流通に関する取組について
- ・スタートアップファームたけたの活用状況について
- ・全国和牛能力共進会への意気込みと見通しについて



◆調査箇所：大分県農業協同組合豊肥事業部キャトルステーション（竹田市久住町）

＜概要＞

大分県農業協同組合豊肥事業部では、農家の飼養管理の省力化や畜舎スペースの確保、子牛の繁殖等を目的としてキャトルステーション（子牛共同育成管理施設）を設置し、生後3か月から5か月未満の子牛を預かり、約半年の間、農家に代わり子牛の育成を行っている。

今回の視察では、施設の概要や子牛委託の条件等について説明を受けた。

＜主な質疑等＞

- ・キャトルステーションの収益について
- ・今後の委託頭数の見通しについて
- ・キャトルステーション委託当初の子牛のストレスのかかり方について



【令和4年6月3日（金）】

◆調査箇所：東部振興局、農林水産研究指導センター農業研究部果樹グループ、花きグループ

<概要>

東部振興局（管轄：別府市、杵築市、国東市、姫島村、日出町）、農林水産研究指導センター農業研究部果樹グループ及び花きグループにおける組織及び管内の概要や、新たな園芸産地の育成、集落営農組織の経営力強化、芽摘みの省力化によるキクの効率的生産体制の確立、温州みかんやかぼすの栽培や落葉果樹の品種の関する試験研究等の取組についてそれぞれ説明を受け、意見交換を行った。

<主な質疑等>

- ・東部管内の世界農業遺産の特徴的な取組について
- ・地元負担ゼロに伴うため池整備の需要急増に対する考え方について
- ・大分県ため池保全サポートセンターの相談対応について



◆調査箇所：大分県農業協同組合東部事業部大分味一ねぎ東部パッケージセンター（国東市武蔵町）

<概要>

J A 東部事業部大分味一ねぎ東部パッケージセンターは、大分味一ねぎの産地である国東市において、新規就農者や企業参入により、年々増加する小ねぎの生産量に対応するため、令和2年度に建設された。施設の建設により、最新鋭の設備運用によるランニングコスト削減が図られ、効率的な作業が可能となっている。

今回の視察では、施設の概要やねぎの調製工程について説明を受けた。

<主な質疑等>

- ・味一ねぎの主な出荷先について
- ・農家の跡継ぎや農地の畑地化など新規就農以外のネギ農家の割合について
- ・今後の味一ねぎの生産量の推移について



◆調査箇所：大分県漁業協同組合杵築支店（荷捌きハモ加工処理施設）（杵築市狩宿）

<概要>

大分県漁業協同組合杵築支店における荷捌きハモ加工処理施設は、市内水産物の集荷機能の強化と、県内トップクラスの漁獲量を誇るハモの骨切り加工によるブランド化、漁業所得の向上を目的として、令和2年3月に建設された。通常の水産物に加え、80tの活ハモと16tの骨切りハモの出荷が可能で、令和3年度は県内約9t、県外約8tを出荷している。

今回の視察では、施設の概要やハモの加工処理の工程等について説明を受け、意見交換を行った。

<主な質疑等>

- ・ハモの仕入実績について
- ・施設の雇用関係について
- ・ハモ漁の形態について



◆調査箇所：J A おおいた（大分市）

<概要>

J A おおいたは、度重なる不祥事を受けて令和3年1月に改革プランを策定したが、同年11月に判明した北部地区ライスセンターでの不祥事等を受けて、令和4年2月に新改革プランとして、「組織風土改革」「不祥事再発防止」にかかる取組みを強化、新設している。

今回の視察では、新改革プランの全体像や令和4年2月の強化・新設項目、営農指導体制の強化等について説明を受けた。

<主な質疑等>

- ・一般職員の目標管理のチェックシステムの構築について
- ・白ねぎの保管に使用する予冷庫の整備について
- ・目標達成に向けて苦勞している点について

